

ニュース JAFIC EYE No.111

2018年7月の東シナ海・日本海における
マサバの漁獲状況

1.マサバ漁獲状況概要

2018年7月の東シナ海～日本海の主要港(新潟～枕崎)におけるマサバの水揚量は3,468トンであり、前年(1,302トン)の2.6倍であった(表1)。特に境港と松浦の水揚量が多く、境港では1,207トン(前年の3.7倍)、松浦では1,184トン(前年の2.8倍)であった(表1)。2013年から2018年までの7月のマサバ水揚量を比較すると、2018年は過去6年間で最も多かった(図1)。

表1 日本海におけるマサバの水揚量

| 水揚港 | 2017年7月 (トン) | 2018年7月 (トン) | 前年比 |
|-----|--------------|--------------|-----|
| 新潟 | 1 | 9 | 9.0 |
| 金沢 | 5 | 22 | 4.4 |
| 境港 | 326 | 1,207 | 3.7 |
| 浜田 | 259 | 392 | 1.5 |
| 福岡 | 101 | 323 | 3.2 |
| 唐津 | 191 | 331 | 1.7 |
| 松浦 | 419 | 1,184 | 2.8 |
| 鹿児島 | — | 0 | — |
| 合計 | 1,302 | 3,468 | 2.7 |

(出典：おさかなひろば)

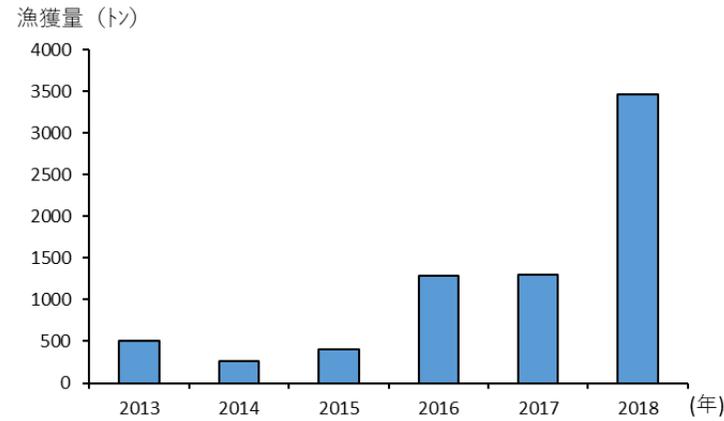


図1 東シナ海～日本海における主要8港の2013年から2018年までの7月のマサバ水揚量
(出典：おさかなひろば)

2.東シナ海～日本海におけるマサバの水揚量と魚体

東シナ海～日本海における水揚量は前年7月を大幅に上回り、過去6年のうち最高の漁獲量であった。水揚物の体長組成は前年と同様1歳魚主体であった(図2、3)。2013年から2017年の境港におけるマサバの水揚量は12月～3月までが盛期であり、4月ごろから水揚量が減少した。しかし2018年は1月から10,000トン/月近い水揚げがあり、徐々に減少しているものの、5月～7月も2,000トン前後の水揚となった(図4)。平成29年度第2回対馬暖流系マアジ・さば類・いわし類長期漁海況予報(予報期間:2018年4月～9月)によると資源評価における親魚量の水準は微増と判断されており、2017年級群の資源量も多いとされていることから、1歳魚が多く漁獲されていると考えられる。

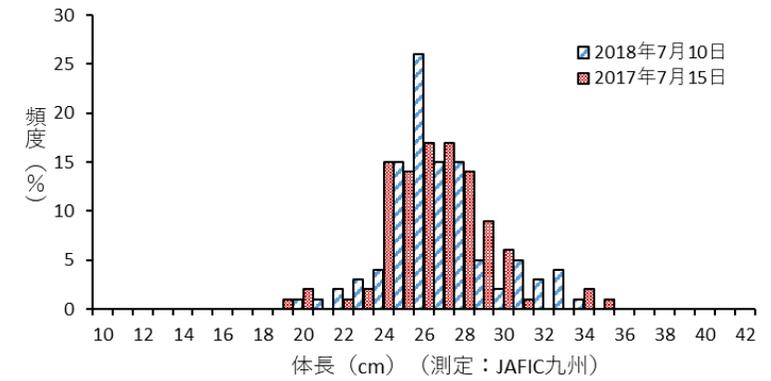


図2 2018年7月中旬と前年同期の松浦港水揚(漁場:九西方)におけるマサバ体長組成比較

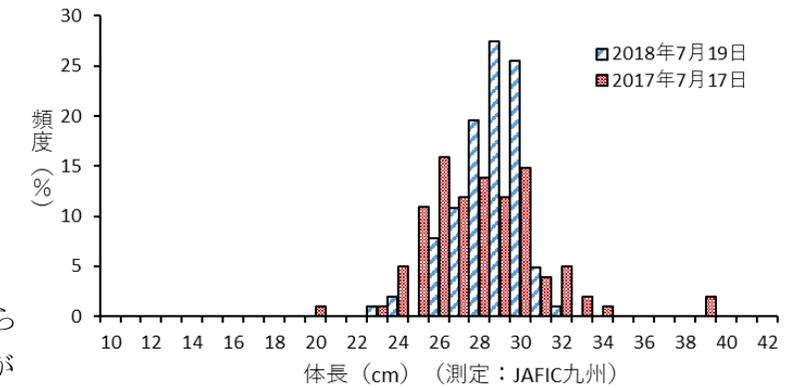


図3 2018年7月中旬と前年同期の松浦港水揚(漁場:九州西方)におけるマサバ体長組成比較

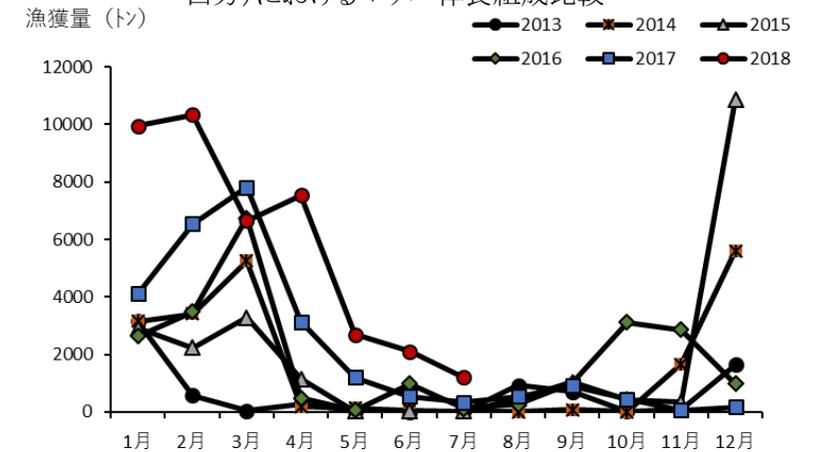


図4 2013年から2018年の境港における月別マサバ漁獲量 (漁海況部)